

令和2年度 学校関係者評価書 (川南町立通山小学校)

評定【4…期待以上 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		結果の考察・分析 及び 改善策等	関係者評価		学校関係者評価委員の意見
		項目	評価		項目	総合	
I 町民総ぐるみによる教育の推進	1 <b>学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。</b> ・地域の人材や素材を活用した学習や行事の充実 ・家庭学習の充実	3.2	3.1	○ 地域学校協働活動推進員と連携し、地域人材・素材を活用した学習を実践している。 ○ 11月の家庭学習の見届け実施率は80%である。次年度は、4月の懇談時にしっかりと説明とお願いをしていく。	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人材、素材は素晴らしい物、事がある。そして、学校側、地域側互いに連携が取れている。</li> <li>・ 家庭学習の見届け率を限りなく100%に近づけ、親と子どもの対話時間を増やせるとよい。そのことが学力を身に付ける近道にもなる。</li> <li>・ 学校教育に興味を示さない家庭が多いと思う。学校からの発信に安心メールを有効活用できないだろうか。</li> <li>・ 地域団体とは今後とも交流を深め、地域内での児童とのあいさつを促すとともに地域での声掛けを行っていく。</li> <li>・ 地域の行事等を学校にも知らせるようにし、学校から家庭に発信してもらうだけでなく親に地域の行事を知らせる機会となる。</li> <li>・ あいさつは、他校に比較してよくできていると思う。</li> <li>・ 児童の作品等を地区公民館等で展示する等地域の人に見てもらい工夫もするとよい。</li> <li>・ 学校からの情報発信はしっかりとある。</li> <li>・ ホームページを見ると活動の様子が分かり、保護者の方も子どもとの会話のきっかけになるのではと思う。</li> </ul>
	2 <b>家庭や地域の教育力の向上に努める。</b> ・あいさつの地域ぐるみの推進 ・PTA独自の具体的取組の推進 ・家庭教育学級の充実やおやじ学級づくり	2.8		○ 取組結果を公開し、参考となる取組の紹介を行った。「明るくあいさつを交わそう」がある程度以上できた95% ○ 学校だけでなく、家庭や地域と連携したあいさつの指導が必要である。 ○ コロナ感染予防のため、予定していた取組ができなかった。	2.8		
	3 <b>開かれた学校づくりを推進する。</b> ・積極的な情報発信 ・地域関係機関との連携 ・学校運営協議会委員との連携強化	3.2		○ ホームページの更新、学校だよりの定期的な発行を行ってきた。児童作品の新聞等への投稿は職員間に広がりつつある。 ○ 学校運営協議会委員との協議で様々な意見を聞くことができ、大変参考になった。	3.3		
II 生きる基盤を育む教育の推進	1 <b>確かな学力を育む教育を推進する。</b> ・基本的な学習態度の育成 ・教職員の授業力向上 ・学校全体での組織的な学習指導の充実 ・ICT機器を活用した授業づくりとプログラミング教育の推進 ・読書機会の充実を図るための学習活動の推進 ・学校・家庭における学習の振り返りの徹底	3.0	3.0	○ 児童の11月の自己評価では「先生の目を見て話を聞いている」が93%となっているが、まだできていない児童の指導が必要である。 ○ 多くの相互参観授業を実施することができ、授業の評価・改善を行うことができた。 ○ 整備が進められているタブレット等のICT機器の活用方法について計画的に研修を行っていく必要がある。 ○ 図書室のパソコンが新調され、図書の貸し出し等がスムーズになるとともに、本の購入が計画的に進められている。 ○ 学びの時間には、担任以外の職員も学級に入り、算数を中心とした復習を行っている。	3.0	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT機器等、教材の進歩は目を見張るものがあるが扱い方は慎重を要する。特に家庭での使い方。</li> <li>・ 新しい教育機器とともに教育の質の向上を期待したい。</li> <li>・ 国語科とリンクして本の購入を進めることは、少しでも読書へと誘うチャンスになるのではと思う。</li> <li>・ 人と人が繋がる一歩としてあいさつは不可欠である。そこから団結や思考力の成長を期待したい。</li> <li>・ 地域では、世代間交流等の行事を早く復活して、触れ合いの場を確保したい。</li> <li>・ クリーン活動が小中連携で行われているが、続けていき、皆で地域をきれいにしていく心構えを育てたいものだ。</li> <li>・ 福祉体験学習等を通して、児童に体感させることが大切だと思う。</li> <li>・ 体力向上プランに期待する。</li> <li>・ 体操や外遊びで体を動かすことは楽しいと思えるよう工夫、指導をお願いしたい。</li> <li>・ 一輪車や竹馬などは、遊びながらバランス感覚を育成できるよい取組だと考える。</li> <li>・ 家庭と一体となった体づくりをするとはよいのではないかと。</li> <li>・ 一人一人を大事にする教育は実践されている。</li> <li>・ 多方面の繋がり、専門的連携はよい。</li> <li>・ 家庭と協力して、問題解決にあたる仕組みをどうつくっていくかが課題である。</li> <li>・ 学校全体で支援の取組がなされれば、共生社会を目指して子どもたちを育てていってほしい。</li> <li>・ 情報を共有し、ネットワーク化を図り、みんなで思いやる気持ちを育てる必要がある。</li> </ul>
	2 <b>豊かな心を育む教育を推進する。</b> ・日本一流を目指したあいさつ、返事の実践 ・相手の立場を考えて行動できる児童の育成 ・人権意識を高める指導の実践 ・奉仕活動やボランティア活動等、体験活動を生かした道德教育の推進	2.8		○ 朝のあいさつに元気がないので、放送などで呼びかけを行う。また、時と場に応じた会釈等のあいさつも指導していく必要がある。 ○ よりよい人間関係づくりとして、学級活動の時間にもSSTのような活動を計画していく。 ○ 運動会等の学校行事等を通して、友だちと協力することの大切さや主体的に取り組む喜びを感じている児童が増えつつある。	2.8		
	3 <b>健やかな体を育む教育を推進する。</b> ・運動の習慣化 ・体育学習の内容、場の設定の工夫 ・望ましい生活習慣の定着化	3.1		○ 体力向上プランに基づき、サーキットカードや五種目走カード等を利用し、運動量を確保した授業を実践できた。 ○ 朝のラジオ体操やさわやか体操を継続していきたい。 ○ 学校保健委員会では、メディアコントロールを中心に取り組み、取組状況を文書等で紹介したが、更なる啓発が必要と考える。	3.3		
	4 <b>共生社会を目指す特別支援教育を推進する。</b> ・個々の実態把握と実態に応じた支援への取組 ・校内支援体制の整備と関係機関との連携	3.2		○ 通常学級と特別支援学級の担任が連携して児童理解に努め、支援員の配置等を効果的に行うことができた。 ○ 児童の諸問題について民生委員児童委員、町福祉課、保健センター、SSWSCとも連携しながら対応に当たっている。	3.5		
III 自立した社会人、職業人を育む教育	1 <b>ふるさと川南に学び、誇りや愛着を生む教育を推進する。</b> ・ふるさと伝統芸能の伝承(川南盆踊り) ・通山地区自治公民館と連携した活動の積極的実践 ・総合的な学習の時間を通したふるさと学習の充実	3.5	3.5	○ 例年通り、運動会では盆踊り保存会の協力の元、生演奏で川南盆踊りを実施できた。 ○ コロナの影響でできなかったものもあったが、自治公民館の協力を得ながら、高齢者との触れ合い活動等ができた。 ○ 総合的な学習の時間を中心にしなが、計画的にふるさと学習を進めることができた。	3.3	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的新しい町であり、それだけに自分たちでつくっていく楽しみも教えていきたい。</li> <li>・ 運動会で実施している川南盆踊り等、地域独自の文化を体に吸収することはふるさとの愛着につながると思う。また、地区公民館活動で身近な人との触れ合い交流があるのは地域を知ることができ、続けてほしい。</li> <li>・ 親子で、ふるさと川南のよさを知る活動がほしい。川南の素晴らしい発見が必要だと思う。</li> <li>・ 児童を中心に地域を知る学習と取組を続けていってほしい。</li> <li>・ 地元の企業、人も協力的であり、更に活用を図るとよい。特に、近隣企業や農業大学校とのキャリア教育の充実を期待している。</li> <li>・ 身近な親の姿を学ぶことからキャリア教育は始めるとよい。</li> <li>・ 身近な校区で活躍されている方を講師に招き、授業されていて、職業観、勤労観を育てるにはとてもよいと思う。</li> </ul>
	2 <b>キャリア教育を推進する。</b> ・望ましい勤労観、職業観を育成するための計画作成と実践 ・地元企業や人材等と連携した学習活動の推進	3.5		○ 体験学習が学年ごとにとたくさん組まれていたり、地元の方と話す機会があったりしてよい。また、外部講師と連携した授業がスムーズにできている。 ○ くみあいチキンフーズ等との連携を深めるとともに、生き方教室の講師発掘も進めていきたい。	3.5		
IV 環境力のある整る備教育、育を支える体制や	1 <b>教職員の資質向上に努める。</b> ・教職員の授業力向上とOJTの推進 ・服務規律の徹底 ・働き方改革の推進	3.2	3.3	○ 主題研究と初期研修でメンターチームを組織し、多くの相互参観授業を実施でき、OJTの推進につながった。 ○ コンプライアンス推進委員会の中で様々な情報交換を行ったことで、タイムリーな情報発信ができ、職員の見識を高めることができた。 ○ 更に働き方改革を進めていく必要がある。	3.5	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員の努力は、高く評価できる。過度の負担にならないように軽減を行ってほしい。</li> <li>・ 児童に直接つながる指導法の研修を実施するとよいと思う。</li> <li>・ 相互に授業参観され、より幅広い授業の進め方をお願いしたい。</li> <li>・ 教職員の資質向上については取組に期待している。</li> <li>・ ヘルメット着用の徹底が必要だ。</li> <li>・ 児童引き渡し訓練は効果的期待できる。</li> <li>・ 避難訓練の意味や危険箇所を児童自身が把握する必要性を感じる。</li> <li>・ 校内安全点検はもちろんだが、登下校時の安全指導は家庭、地域の方の見守りが必要なので、町放送での協力もお願いしたいと思う。</li> <li>・ 安全教育は、自分一人になった時、どう対応するか判断できる児童に育てることが大切だと思う。</li> </ul>
	2 <b>学校における安全、安心の確保に努める。</b> ・校内の安全整備 ・登下校時の安全指導の徹底 ・緊急時の避難体制の整備	3.3		○ 安全点検の結果を基に、危険箇所等の修繕が進んでいる。 ○ ヘルメットの着用等、学校外での安全確保について、更に保護者に啓発していく必要がある。 ○ 非常時の児童引き渡し訓練を実施することができた。これを次年度につなげていきたい。また、3月に津波避難訓練を連携で実施予定である。	3.0		